

主な出来事

【内政】

- 11日、トゥーバにおいて第120回マツガルが開催された。
- 13日、ジョヌ首相は記者会見を開き、11月21日の野党集会の際にウッド前大統領が行ったサル政権批判に対する反論を行った。

【外政】

- 1日から2日にかけて、第1回仏語圏経済フォーラムが開催され、サル大統領、ジュフ仏語圏国際機関(OIF)事務総長、ジュペ仏ボルドー市長(元仏首相)、パラディ加国際開発・フランコフォニー相、ジョップ世銀アフリカ担当副総裁、ブルトン元仏経済・財政・産業相らが出席した。
- 15日から16日にかけて、アフリカの平和と安全保障のためのダカール・フォーラムが開催され、サル大統領、ル・ドリアン仏国防相、オバサンジョ元ナイジェリア大統領、ケイタ・マリ大統領、アブデルアジズ・モータニア大統領、デビ・チャド大統領らが出席した。

【経済】

- 8日、ファイ水力・衛生大臣は、政府とセネガル水配給会社(SDE)及びセネガル水道公社(SONES)との業務委託契約を5年間延長する旨明らかにした。
- 19日、第23回ダカール国際見本市(FIDAK)が開幕した。

【内政】

1 前政権の不正追及

- 1日に予定されていたカリム・ウッド元大臣の公判再開は22日に延期された。理由は明らかにされていない(1日 APS)(当館注:同元大臣の公判は、OIF首脳会合の開催を理由に延期されていた)。
- 22日、カリム・ウッド元大臣の公判が再開された(23日 Populaire)。
- 29日、財の不正取得抑制のための監査院(CREI)は、カリム・ウッド元大臣弁護団による同元大臣の仮釈放要求を却下した(29日 Dakaractu)。

2 サル大統領らによる各イスラム教団の本拠地訪問

- 4日に予定されているサル大統領のトゥーバ訪問に際し、スリニュー・シディ・モクタール・ンバケ・ムリッド教団総カリフは、同大統領を手厚く歓迎するよう信徒に対して指令を発した(4日 Soleil)。
- 4日から5日にかけて、サル大統領はジョヌ首相ら政府関係者とともにトゥーバを訪問し、スリニュー・シディ・モクタール・ンバケ・ムリッド教団総カリフらと会談を行った(6・7日 Soleil)。
- 6日から7日にかけて、ウッド前大統領はトゥーバを訪問し、スリニュー・シディ・モクタール・ンバケ・ムリッド教団総カリフと会談を行うとともに、自身の政権下で開始された同市での公共事業がいまだに完遂されていない

ことを遺憾に思う旨述べた(8日 APS)。

- スリニュー・アブドゥ・アジズ・ティジャーヌ教団スポークスマンは、26日に予定されているサル大統領のティヴァワン訪問に際し、「記録的な出迎え」を行うよう信徒に呼びかけた(18日 Seneweb)。

3 第120回マツガル(11日)

(当館注:マツガルは、ムリッド教団の創始者であるアーマド・バンバが仏植民地当局によってガボンへの流刑に処された日を記念する例祭)

- 消防署の発表によると、11日までに107件の交通事故が発生し、11名が死亡、319名が負傷した(12日 Populaire)。
- 12日に開催された閉会式典において、スリニュー・シディ・モクタール・ンバケ・ムリッド教団総カリフはスポークスマンを通じ、伝統的な道徳観及び倫理観が失われ、社会生活に悪影響を与えていることについて懸念を表明した(13・14日 Soleil)。

4 その他

- 13日、ジョヌ首相は記者会見を開き、11月21日の野党集会の際にワッド前大統領が行ったサル政権批判に対する反論を行った(15日 Soleil)(当館注:同前大統領は、サル大統領実弟のアリュウ・サル氏がセネガルで採掘予定の石油の利権を不当に取得しており、また、サル大統領が印鉄鋼業アセロール・ミタル社から政府が受領した資金の一部を着服していることなどを主張した)。
- 20日、タノール・ジェン社会党党首は、2017年の大統領選挙において同党から独自の候補を擁立する考えを明らかにした(20日 APS)。
- 22日、制限年齢に達したため退任するテオドル・アドリアン・サール・ダカール枢機卿に代わり、ベンジャマン・ンジャイ・カオラック司教が新枢機卿に就任した(23日 Sud Quotidien)。

【外政】

1 第1回仏語圏経済フォーラム(1日 APS, 2・3日 Soleil)(客年往電第1544号)

- 1日から2日にかけて、セネガル投資・大規模工事促進公社(APIX)及び仏建設会社 Richard Attias & Associatesの共催で第1回仏語圏経済フォーラムが開催された。
- 主な出席者はサル大統領、ジョヌ首相、バー経済・財政・計画相、セック保健相、ジュフ OIF 事務総長、ジュペ仏ボルドー市長(元仏首相)、パラディ加国際開発・フランコフォニー相、ジョップ世銀アフリカ担当副総裁、ブルトン元仏経済・財政・産業相など。
- 1日、サル大統領は、アフリカにおける中国の存在は混乱をもたらすこともあるが、前向きな現象ととらえるべきであり、欧米諸国は積極的に中国との競争に参入すべきである旨述べた。

- 閉会式におけるジョヌ首相の発言によると、同フォーラムには2日間で1,379人の投資家が参加し、仏語圏ビザの導入、仏語圏投資基金の設立など、仏語圏の経済に関する80の具体的な提言がなされた。

2 その他

- サル大統領は 8 日から 9 日にかけてガボンを訪れ、ボンゴ大統領と会談を行った(9 日 Soleil)。
- トゥーレ前首相は、12 月 10 日に予定されているモーリシャス国民議会議員選挙における AU 選挙監視団の団長に任命された(6・7 日 Quotidien)。
- 11 日、セネガルを訪問中のペレイラ・ギニアビサウ首相は、サル大統領と会談を行った(12 日 Soleil)。
- 13 日から 15 日にかけて、サル大統領はジャロ内相及びバー経済・財政・計画相らとともにスペインを訪れ、フェリペ国王及びラホイ首相と会談を行った。同大統領はラホイ政権下において同国を訪れた初めてのアフリカの国家元首となる(17 日 Leral.net)。
- 15 日から 16 日にかけて、アフリカの平和と安全保障のためのダカール・フォーラムが開催され、サル大統領、ジョヌ首相、ガジョ元外相(パンアフリカン戦略研究所所長)、ル・ドリアン仏国防相、オバサンジョ元ナイジェリア大統領、ケイタ・マリ大統領、アブデルアジズ・モーリタニア大統領、デビ・チャド大統領らが出席した(16 日、17 日 Soleil)(往電第 46 号)。
- ダカール市は、中国・広州市が優れた都市開発を実施した世界の都市に対して授賞する「広州賞(Prix Guangzhou)」を同市が受賞した旨発表した(16 日 APS)。
- 18 日、ヌアクショットで開催された「サヘル・サハラ地域の平和と安全保障のためのアフリカによる機構の実用化のためのヌアクショット・プロセス」首脳会合において、サル大統領は国連マリ多元統合安定化ミッション(MINUSMA)の権限の強化を訴えた(18 日 APS)(客年往電第 1586 号)。

【経済】

- 5 日、韓国の支援によりダカール・ジガンシオール間に就航予定の輸送船アゲン号及びジャンボン号がダカール港に到着した(5 日 APS)。
- 8 日、ファイ水力・衛生大臣は、政府とセネガル水配給会社(SDE)及びセネガル水道公社(SONES)との業務委託契約を 5 年間延長する旨明らかにした(8 日 APS)。
- 10 日の閣議において、サル大統領は今期の落花生買い取り価格を 1 キロあたり 200Fcfra に据え置く旨発表した(12 日 Soleil)。

- マンガラ予算担当大臣は、経済財政省経済展望調査局(DPEE)によると、エボラ出血熱の経済への影響は国内総生産の0.2%減である旨発表した(12日 Soleil)。
- 15日、ジョヌ首相は、カン・インフラ相、サール女性相、バススポーツ相らとともにカオラック・ファティック間道路補修工事の着工式に出席した。同工事は18か月以内に完了する予定(16日 Populaire)。
- 18日、ニヨン青年・雇用・市民組織相は、政府が2012年から14年の間に94,354の雇用を創出した旨発言した。分野別内訳は商業38.59%、農業13.42%、建設業13.27%、ホテル・レストラン業8.7%、食品加工業4.74%(18日 APS)。
- ダカール自治港は、West Africa Rating Agency(WARA)による投資に関する格付けにおいてBBBの評価を獲得した(18日 PANA)。
- 19日、第23回ダカール国際見本市(FIDAK)が開幕され、ジョヌ首相、サール商業・インフォーマルセクター・消費・国産品販売促進・中小企業相らが開会式に出席した(19日 APS)。

(了)